

## SunSystems 導入の ポイント

- データ変更への  
柔軟な対応
- 緻密な予実管理の実現
- コード設定による  
運用面での実用性

## 導入効果

- 経営へのタイムリーな  
情報提供
- 経営データの透明化
- 予算の精度向上
- 月次決算処理の  
スピード化
- システム部門の  
負荷軽減

→ 「主食をもっとおいしく、より食べやすく」を理念に、乾麺や麦製品を提供するのは山梨県に本社を置く食品メーカー、はくばくです。特に、主力商品の1つ「骨太家族」は有名です。現代人の食や健康をサポートする元気な地方企業である同社は、厳しい経営意識を持つ長澤重俊社長を筆頭に、常に改革への強いモチベーションを維持している企業です。

はくばくでは、従来13年間に渡りメインフレームベースのシステムが稼動していましたが、充実した経営情報の蓄積とそれをユーザーにすばやく提供するというニーズには対応できていませんでした。また、45に上る部門がそれぞれ業績管理をしており、各種のデータ変更システム側を合わせていくには限界がありました。こうした問題に対応し、さらには、システム部門への負荷を減らすことを目的に、同社は管理会計機能の改革を決断、財務および管理会計部門における「SunSystems（サンシステム）」導入に踏み切りました。

特に、部門別の緻密な予実管理をベースとするデータの提供、月次決算の早期化などは、SunSystemsだからこそ解決できた課題でした。また、各種の数字の変動に対して、要因を追求する機能が充実したことで、経営状況を透明化することができました。経営者の視点に立った同社の管理会計は、同じ問題を抱える他社にとっても大いに参考になる事例です。

管理本部経営管理グループで部長を務める望月哲也氏は、以前のシステムについて、「手入力が必要な上バッチ処理であったため、経営情報をすばやく提供する機能が不足していた」と話します。はくばくでは、SunSystemsの柔軟なインターフェースにより、ホストコンピュータとうまく連携していることで、両システム



を横断するデータの分析が可能になったり、担当者がデータを二重入力するという手間も減らすことができました。

例えば、以前は全社データを抽出するために、残高ファイルを部門別に集計する必要がありました。一方SunSystemsでは、データを残高の形では一切持ちません。つまり、残高として個別のレコードが合算されることがないので、常に「そのまま」のデータを扱えるわけです。さらに、SunSystemsでは、セグメントコードを巧みに使い分けることにより、部門間にまたがるデータでも柔軟に抽出することができます。

これが、データ抽出や集計の機械化、精度の向上につながり、予実管理の強化やシステム部門の負荷の軽減など、はくばくの管理会計の質を高める上での鍵になっています。

## マスターデータの激減による 処理効率の向上

食品メーカーは一般に、多くの商品アイテムを季節や地域に合わせて展開することが求められます。そこで、確実に利益を確保していくためには、原価管理の実施、部門別の予実管理も厳密に行っていくことが理

## SunSystems 製品

### SunSystems Financials

→ 元帳会計

→ 仕訳配賦管理

### SunSystems Analytics

→ Vision XL

→ Vision Executive

### データベース

→ Oracle

### プラットフォーム

→ Microsoft Windows NT

### 業種

→ 食品製造販売

### 地域

→ 本社：日本

→ 導入地：日本

## システムズユニオン株式会社

〒102-0075  
千代田区三番町 6-2 6  
住友不動産三番町ビル 3F  
TEL：(03)3264-9054  
FAX：(03)3264-9070  
URL：http://www.systemsunion.co.jp  
e-mail：jmarketing@sunsystems.com

想的です。はくばくはこれを、データ分析などSunSystemsの多彩な機能によって確実に実行しています。多品目管理を実現するためには、SunSystemsの柔軟なコード設定、分析能力が必要となり、それがパッケージシステムを選択する決め手になったのです。

製品としては、財務および管理分析を行う「Vision XL」、リアルタイムの多次元分析を可能する「Vision Executive」を利用しています。

SunSystemsの導入を担当した経営戦略室の田辺征治氏は、「業務プロセスが情報システム主導から経営管理主導へと変化した」と導入効果を指摘します。

また、SunSystemsによりマスターデータの登録が激減したことにも触れました。同社の業務データは、45の部門、5つの販売ルート、19の製品種目で構成されます。以前は、すべての組み合わせをマスターデータとして登録しなくてはなりません。つまり、45×5×19（計4275パターン）のマスターをメンテナンスしなければならなかったのです。

一方、SunSystemsでは効果的にデータをもつことで、45+5+19（計69データ）のマスター登録で対応可能となりシステム部門の負荷を大幅に軽減することができました。

さらに経営管理グループにとっても、作業効率は上がりました。SunSystemsでは複数の予算ファイルを作成できます。はくばくでは当初予算、下期予算、修正予算の3つを作成しており、「Vision XL」を使うことで、システム部門の介在なしに予実の比較が容易に行えるようになりました。この結果、以前のようにデータ入力後にバッチ処理を実行、そこから手作業で月次決算帳票を作

管理本部  
経営管理グループ  
部長  
望月哲也氏



経営戦略室  
田辺征治氏

成するといった手間なしに、月次決算数値を瞬時に確定できるようになりました。これまで全体で10日ほどかかっていた月次決算の作業工数も、3～4日にまで短縮されました。

### 計画と実績の差異縮小で利益もアップ

望月氏は、SunSystemsによりデータが可視化されたことで、計画と実績の差異が小さくなり、最終利益のアップが期待できるようになっています。ビジネスの結果を分析した上で、経営者が次のアクションを起こす際にも、SunSystemsがもつ詳細な経営データが強い味方になります。

同氏は、現在は経営管理グループのみが利用しているSunSystemsを、今後は45に分かれる各部門長が、それぞれ独自に業績データを抽出できる環境へと発展させたいと話しています。部門長が数値データを常に把握できるシステムに移行することで、業績への責任感を高めるなど、現場の意識改革を促します。

株式会社はくばく  
本社：山梨県南巨摩郡増穂町最勝寺1351  
設立：1941年4月15日  
資本金：9,800万円  
従業員数：226名  
(2003年3月31日現在)

(C)2003 Systems Union Ltd.  
システムズユニオン、サンシステムは当社の登録商標です。一般にその他の製品名は他社の商標または登録商標です。